

令和元年（2019年）12月19日

生産性改善インストラクター活用事業で作業時間を1/2に ～ネットヨタ山形株 VITZ車検30分を実現～

【本件のポイント】

- 国際事業化研究センターの生産性改善インストラクター活用事業（シニアインストラクター事業）で、ネットヨタ山形株式会社へ行った支援の成果。
- 人・モノ・時間のムダを洗い出し、VITZ車検を従来の60分から30分へ作業時間の短縮に成功。
- 国際事業化研究センターでは、今年度、県内企業15社と学術指導契約を締結し、現場診断と改善提案を行っている。



【概要】

山形大学国際事業化研究センターでは、2011年から「シニアインストラクター養成スクール」を開講し、企業収益改善・生産性向上を指導するインストラクターを養成してきました。また、2012年からは、同スクールを修了したインストラクターを企業に派遣して、収益改善を支援するインストラクター活用事業も実施しています。このたび、この事業を活用したネットヨタ山形株式会社（代表取締役社長：高橋 修、山形市）では、インストラクターの現場診断・改善提案と現場作業者の知恵と工夫により、車検時間を従来の1/2の30分に短縮することに成功しました。同社では、トヨタグループの改善活動を通して、VITZ車検60分を実現していましたが、更に高い目標を達成するためのパートナーとして国際事業化研究センターのインストラクター活用事業を選択し、2019年6月から改善に取り組んでいます。この成果は、車検作業場の生産性改善だけでなく、お客様の利便性・お客様満足に繋がることが期待されています。

国際事業化研究センターでは、今年度は、県内企業15社と学術指導契約を締結し、人・モノ・時間あらゆるものを「より少なく」使って、より多くのお客様に必要なものを生み出すことを目指し、現場診断と改善提案を行っています。

【ネットヨタ山形株式会社の事例】

ネットヨタ山形株式会社では、トヨタグループの改善活動を通して、VITZ車検60分を実現していましたが、さらに高い目標として、VITZ車検30分を設定しました。これを受け、インストラクターが「モノと情報の流れ」「動線」「作業時間」の現状調査を行い、その分析から人・モノ・時間のムダを洗い出し、目指す姿の「モノと情報の流れ」「動線」「作業時間」など対策を提案しました。それらの提案を基に、ネットヨタ山形株式会社では車検担当者だけでなく営業担当者まで含めた拠点全体の改善活動として取り組むことで、目標を達成することに成功しました。



具体的には、インストラクターがビデオ撮影、動線距離測定等により作業分析を行い、複数の作業員が分担して、より効率よく動けるような作業手順、動線、道具配置を検討し提案しました。車検だけでなく、車検後の車内清掃や洗車も含め、お客様への引き渡しまでを30分以内で行えるよう改善策をともに考え、実行しました。

この成果は、車検作業場の生産性改善だけでなく、お客様の利便性・お客様満足に繋がる効果も期待できます。

【シニアインストラクター事業】

山形県内企業の収益を改善して地域産業の活性化を図る為、山形大学国際事業化研究センターのシニアインストラクターを企業に派遣して、経営革新・生産革新の支援活動を実施するものです。山形県産業振興ビジョンの中小企業支援の重要施策の一つとしてシニアインストラクター事業が盛り込まれ、2015年より山形県成長分野参入戦略支援事業として山形県と連携して事業展開しています。

●シニアインストラクター養成スクール

高度な技能や豊富な職務経験を積んだ企業退職者、並びに企業の現場改善リーダーまたは幹部候補を対象として、経営視点での「顧客に向けた価値の流れづくり」を身につけていただき、経営革新・生産革新を指導できる専門家（シニアインストラクター）を養成しています。

●養成したインストラクターの活用

「シニアインストラクター養成スクール」を修了したインストラクターを企業に派遣して、人・モノ・時間あらゆるものについて「より少なく」使って、より多くのお客様に必要なものを生み出すことを目指す「リーン生産方式」による収益改善を支援しています。特に山形大学方式として「リードタイム短縮」※を目標に現場診断と改善提案を行い、企業収益につながる改善に取り組んでいます。

【国際事業化研究センターの取り組み】

国際事業化研究センターでは2011年から「シニアインストラクター養成スクール」を開講し、企業収益改善・生産性向上を指導するインストラクターを養成してきました（累計151名）。また、インストラクター活用事業として、2012年から山形県および東北の企業にインストラクターを派遣して、リーン生産方式による収益改善を支援しています（累計80社以上）。今年度は県内企業15社と学術指導契約を締結し、リードタイム短縮を重点的に支援しています。



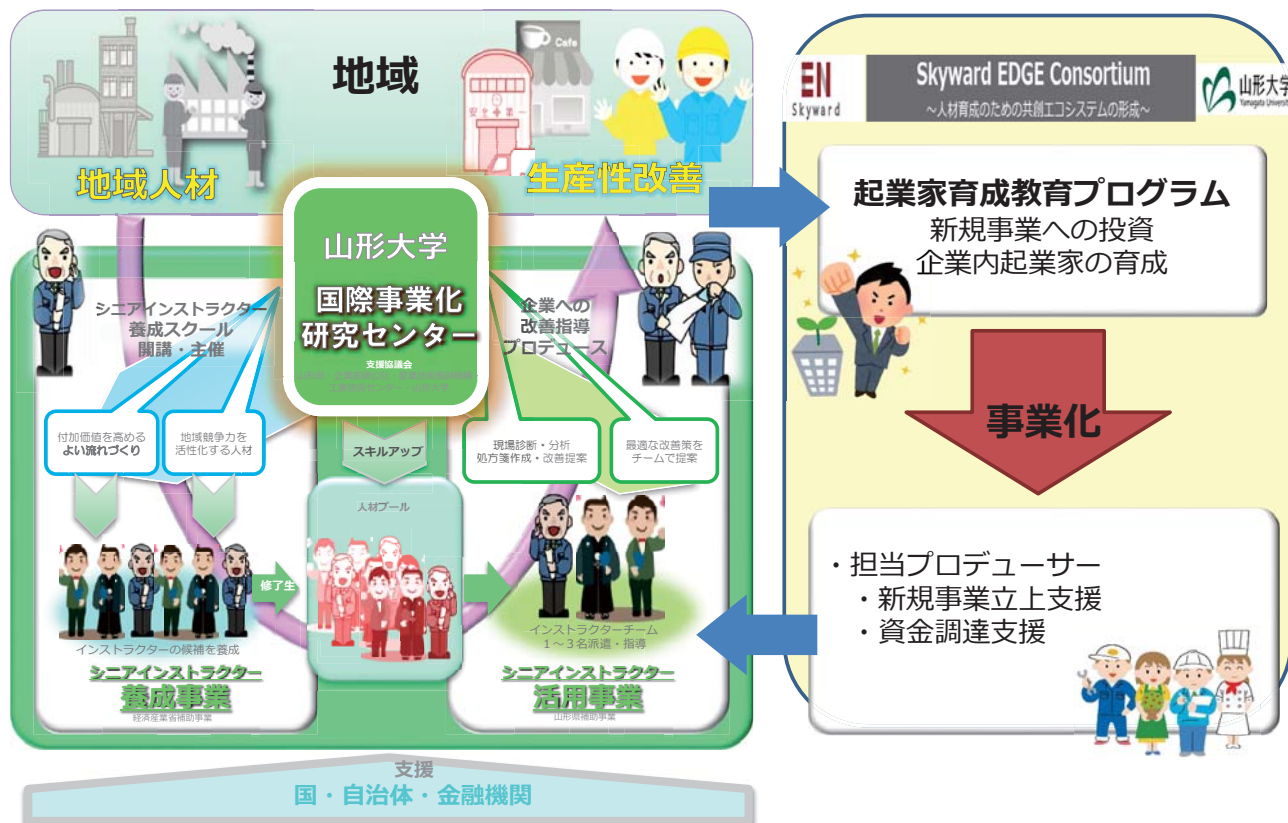
年度	目標 5名	成果
	正規採用人数	効果金額
H28	64名	0.8億円
H29	26名	1.9億円
H30	27名	6.6億円
R1	(9名)	<=10月末時点

用語解説

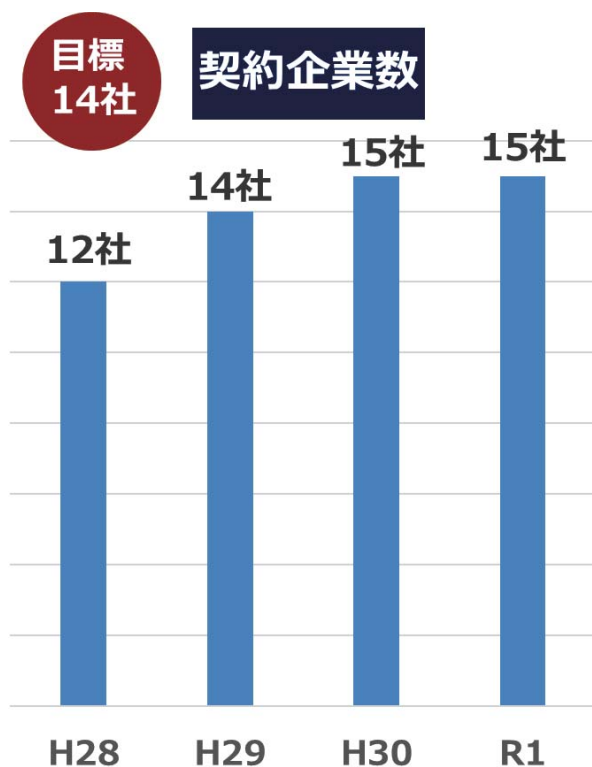
※リードタイム短縮：リードタイム（lead time）とは、作業の開始から終了までの時間という意味。リードタイム短縮とは、工程見直しにより作業のムダを省き、作業時間を短縮すること。それにより作業効率が向上し利益の増大が見込めるほか、リピート率や顧客満足度（CS）の向上にもつながる。

お問い合わせ
山形大学 国際事業化研究センター 石山
TEL：0238-26-3601
Email：si-info@yz.yamagata-u.ac.jp

山形大学国際事業化研究センターの取り組み



企業支援の成果



目標 5名

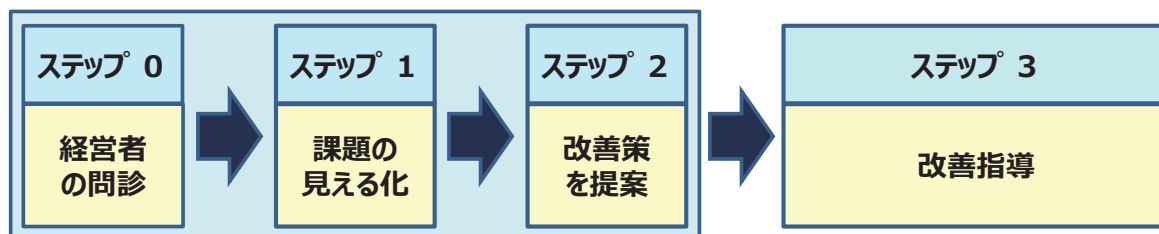
成果

年度	正規採用人数	効果金額
H28	64名	0.8億円
H29	26名	1.9億円
H30	27名	6.6億円
R1	(9名)	<= 10月末時点

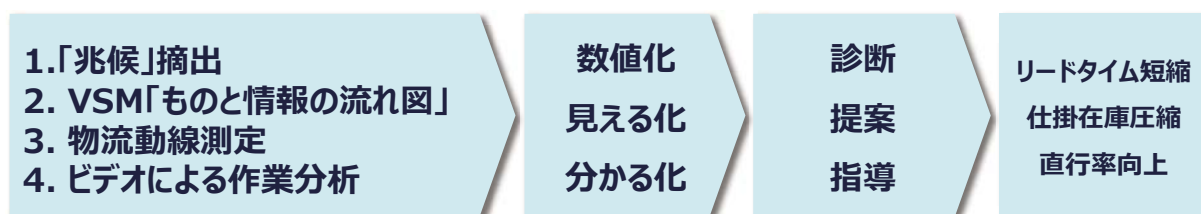
山形大学メソッド

リーン生産方式により、ムダなくモノ・情報・お金の良い流れを実現し、リードタイム短縮を目指します

◆標準ステップ^o



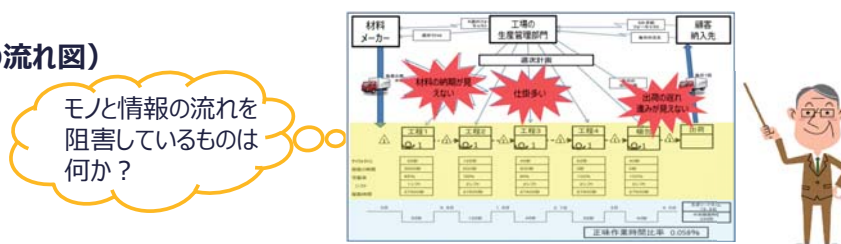
◆データによる分析：



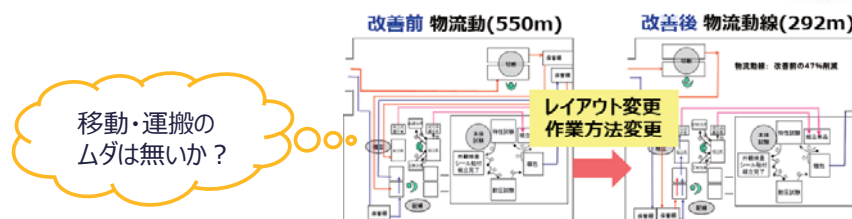
現場診断で課題を見える化

リーン生産方式でリードタイム短縮を目指し、隠れていた課題を見える化します。

- ## 1. VSM (モノと情報の流れ図) による全体最適化



- ## 2. 動線の最適化



- ### 3. 作業の最適化

